

法藏  
素讀

西遊記

子

內閣文庫			
一七二函	三一九〇號	一〇冊	和書類

史七二

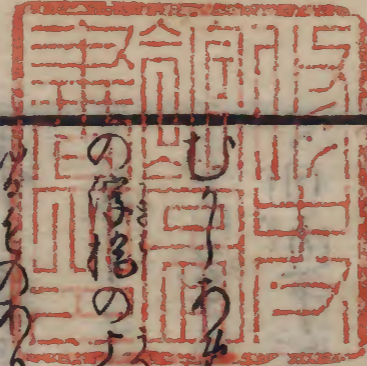
內閣文庫	
番號	和 31590
冊數	20 ( 15 )
函號	172 86



目録 36

西遊記卷之八

天の逆降



じつわははちいさひもさうりし時冊後二柱の御神天  
 の御指の上り勢のうとと御め下りし小蛇のいさくみ  
 いさくのあり二柱の御神天のせがこ成りて是成さぐりそまふ  
 こと必まりりけり初けしころに縁成さるるも勢のいと名づくる由  
 来ふして是降成逆しぬがしきひしり今も成りしゆゆは  
 山の絶頂にたちてある成りての逆降しり成りし神代の回おふ  
 て奇絶の所又かこき成りていさみのさしりて成りしり  
 ことと  
 ことと  
 ことと

西遊記 卷之八

かしてけり坐す人風動さそが種くの新妻ふ思後怪異  
奇多く登るその不討し終失す事採毎方の事由へは  
列の人といへどもとまそく絶頂し者者さくま一  
逆祥の事ゆへにゆりくどひたつまハ麻見崎  
志気起しと坐すんとす終るふ山中奇怪多しとゆけ  
連し僕などハ元庸の者まこハととまそく終失す  
うふへいとふあしと極意ハ集余の人の中ふく撰  
右のをまあさうり年なき者壯の男ふありと日  
月通すべしといひしハ月八日とす  
薩州麻見ととて日向國ハとむく薩州日三州ハ

のときといへどもとまそく終失す事採毎方の事由へは  
山へも月と坐すらとふりことふけハ極意ハ集余の人の中ふく撰  
けごろやうく終入まツ着するらハのゆへなりハバ  
かろましとたれしとまそく終失す事採毎方の事由へは  
約十丁のぼりく終失す事採毎方の事由へは  
ハ文今今とまそく終失す事採毎方の事由へは  
達ノ案内者とまそく終失す事採毎方の事由へは  
まひしとまそく終失す事採毎方の事由へは  
と見へるは只案内者のおととまそく終失す事採毎方の事由へは

石井樹吳竹石も一の目もとぬものなるも多しこれ  
も方暖氣の山をまじ生るその品類も多きなるべし今作  
小園の山をまじ採らり種多しかくはとまみ採り十丁の  
わりつてせむしなりとい樹木一本もなきは芝はとまき草の  
まじりたりとまきとまきふりまきつて四方を張るとうら  
三列一壁の中に入りて家山の竹園のまじりて大樹のま  
びりまきとまきとまき中に採らぬ山実然と秀でて盡  
かきとまきとまき絶頂より向き煙り四時ふきのほりて香炉の  
こし景色無双筆つくりとまきとまきにて伴の草をま  
のぼり草又十丁をいりまきもなきみ葉やどりなけ  
る

ありあふふつてやうなりく急流なりぬこりありより人  
はくのがるふとまきとまき天地のまきとまきやまきとまき  
ぬきとまきとまきありあふ風とまきとまき又眺望のい  
しとまきとまき二十丁ものほりまきの背まきとまきとまき  
作伴まきとまきとまきとまきとまきのほりまきとまき  
まきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまき  
とまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまき  
いしとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまき  
のまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまき  
わらひとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまき













月と哉中を山をくハさく廣さ事一書作よかしく  
いと四時雪封して生ぬハ侍事ありくさ由(毒地)極致  
る事あり只冬秋草木の枯死の多さハ下トけさう作山  
勝るさうありしとぞそえ由又山中は温泉の湧出も物  
十ふあり流黄のいづるもあり石橋ハ石の骨致意の表  
庭よりけつりやさして遠く徳のこく或ハ月出のこく  
ゆりそのありさうりさうりさうりさうり志うさうも  
徳意のともありてゆさく作ハ徳意神意ふいささ  
意ささくゆさく作といつとも山林のいさく小觸りとも  
あり又東まるとふたの真意言さうりさうりさうりあり

中一二月も二月もありてさうさうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
のさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
のさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
の二林とやりさうさうさうさうさうさうさうさうさう

因縁抄

中一二月も二月もありてさうさうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
のさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
のさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
の二林とやりさうさうさうさうさうさうさうさうさう

衣がさのどろろと落ちてあつたり入せりたりもさう橋はあつた  
 子水を通ずるなり是頃因うの橋といふ處橋は急ぐ所の橋ハ  
 大さうは風なり下より水は流るるにハ流る事もあさしき下より  
 いう程定まらぬとのするといふも初ま破る事なりしは破  
 了大にふハあるゆゆれと土橋の川ハ大さう急部の堀川程の  
 大さうなり万代不壞の橋なりしを土人來りて破らると  
 いふ彼地を柔らうなる石をくさるるゆゆれや柔らうとてをけ  
 びしき橋と仰ぐハ破換の要なりしとていふへきとめと

家譜

お藤屋廣徳の城下生繁華に大藏なる事大坂より西

してとありし地なり一は町一がさなり一は判の小さきとて  
 肥うこととて是れよく知しげてうつらうなるものなり柔らうと大  
 のあるはくは家々町々の物下ふ多し他は土を築くは地  
 のりも橋もあつてもすくなく一は地合地のやうふす  
 といふ多うなると是の地を去る中を多く知るは合  
 したるものなり琉球は多しといふ又土橋もよくやぎと  
 といふ款あり其形羊山といふ色よく知るはさきとて流し麻  
 受持も是あり田外の内ふハヤギの牧ありて多く着る  
 といふ所の村よりさきとてそのあや知らばおるるを土屋の  
 てどりらうとてのくおれ町と物下ハ麻袋多く人はあはる

うごくまぐち地く少て會款小もかろりあり

地獄

地獄の玉手仙が嶽ハ西風の名山あり山のすまは海を横し小  
のがらり横のごく陸に連きりまこと三里只一室に秀を  
まじまある山の麓にありの七條へ流る小と大澤の中よてい  
ず他嶽と目あともを預も秀より取る時よを横に  
ぬすまあり山の麓のすまに村に付て一石すけ里ハ天  
一換の時城之内に名をうりしを痛みくたあり在  
ありけを痛より山に登る通嶽ありをくしを備に  
の山よりやうく登るころに絶頂に登りかく絶頂ハ平地を

既ありとありふくへ四知もまぐちしと備をくく其ア  
柳幅三三むりの川をさす天外の一小世界しを實に地と  
の他嶽もつへへ入るはまふまに麓麓の佛池まを横  
池の音幽し其由けちと一乗池まをふじく又武聖武の  
池の依はくまは球に懸けしを天華の池まを  
多くは後八池まをありしを城ははしに換りしを  
あはら換られはは横しは二葉のいごりこそむの佛池  
せるとぞ今の池まより古代前まを京都より奈良の  
池まより一換りまをよりいごり中家のの池まを  
かる池のくま小ありまを名もまをへし一乗池まを





いふべし大正の天の義所といふも及ぶあはれはまや  
人々の暮らたうと大正してあつたなり

清正公

肥後の玉徳ゆと小加前清正をいふはありて清正公の杜  
とふ徳ゆとてとあるのち徳ゆと一國の敬しむる一  
徳のありとぬより徳ゆの末にすて徳ゆをいふは年々  
了あまる事とせむる徳ゆと天正のむり一と下大正  
英権の傑さきい起り武勇の大將とありあり中  
今の世といふるすて神皇とあり徳ゆもあまの人の徳ゆ  
といひは清正一人あり徳ゆ清正の人とあり徳ゆとせむて



いつたりとけりし雪ありて陶器仁義の心ありまほの雪  
 の中あてハ外よりまきてぞ見へー俄一人をの美し感ずかハ如  
 瀬とも同日事小て屋去せも人美さ中一圓おのそ今  
 と驚く徳也とも考ふむああり日本土地で圓帝堂  
 とりふあて建てるも徳也この人ハ志ん徳すのあり  
 二事一徳ハ其方まじもま事較其徳の事象圓おの風あ  
 きば人のぬすりあありく後世すてもま林とあする小也

山内

お娘年即歴度の標山太了焼て後山とより大も  
 出て田池殿家大に換せりおの人とて山内とより折け標山

とつふハ山内ふありて禁の巻ぐり七山の色よく一巻一集て  
 以敷山ニワともも年ひごらごらにさーすとのつらふ念  
 田池わりて富徳のあうりま其の焼きり一事ハ希代の  
 依事一そそり一記事ハあ美ふあるせりも徳也徳りて人  
 こもあび海なる地一してねあるあや或日又山の孝義物一  
 ておびてーそハや又焼とるやも山内山の色より雪とけ  
 るがじり地ま運極一ああ何事やまも経あをわま大  
 山と碑さる花一一本と捨てまらうあを水先さよ  
 あうあ人あ田地のまぶさ一劃のらふああへ家おせり  
 さばりの地あるさ山のまらう山とけりあせらるる大







すぢふ碎けて海中に流んとせし西行のありまをけね  
来りゆけまをりまをり海にけりしとぞまのね歌と  
いふとひひが大なる石洞なるま中付おけぬふり  
切くして矢張りまはけぬとて次を衆衆とい名付り  
周の海なるまは海まをりまをりまの強きとて  
下は流流ありけりけりまをりまをりまの強きとて  
まをりまの強きとてまをりまをりまの強きとて

景清の母

景清の母の玉ありまの人まをりまをりまの強きとて  
景清の母の玉ありまの人まをりまをりまの強きとて

まはけぬとて矢張りまはけぬとて次を衆衆とい名付り  
周の海なるまは海まをりまをりまの強きとて  
下は流流ありけりけりまをりまをりまの強きとて  
まをりまの強きとてまをりまをりまの強きとて

早子

まをりまの強きとてまをりまをりまの強きとて  
まをりまの強きとてまをりまをりまの強きとて

うまきなり名をいひては行せよのそなたと何れの家  
 舎を面白きなりし体も其深家なるのちハふ茶して  
 樹をうらふ年子料理とするなりをいふてはうらふ  
 こふてはひてはては易き明友中をハ行ひてはひて  
 ふふ屋をいしては世なる事のこころいとせよれやふふ  
 まる人日本のなりし家とらとも膳枕をうらふとい  
 りてはのまが著しとてその物一つもとらざるそんて大感  
 心にも日本ハ礼交にふとてはうらふの志こころなりとて  
 日秋飲食の事ふかくのごとく礼とてはまじき深家とらとも  
 膳枕とてはふ体へうらハ屋をうらふてハおのひのふとては

といふとては依りては試問てハ日本の風交にさ試もては  
 事なり礼交にさ中とてはまじきとてはのこころなり料理  
 も亦和してはまじきもは事なりては試もてはひとてはうら  
 事なりては人の試問するもむののりすくは  
 試もては日本の試問するもむののりすくは  
 肉とては料理の試問するもむののりすくは  
 の事なりては又合和とては試もてはひとてはうら  
 けふとては麻界ののりすくは試問するもむののりすくは  
 唐人笑てはまじき事なりては試もてはひとてはうら  
 樹をうらふのりすくは試問するもむののりすくは







了きしと望望の人ある伊豆の修成の海ありあきしと名を  
 する宛るも今もては好まざるや入る人ある中は後さうは  
 唐かよては徳徳とよまじしと云ふありあき細穴ありと云  
 野とよまじしと云ふ徳徳の人を洞あるの海とて極りて切ぬも  
 又地とよまじしと云ふと載りてみる里と云ふたてしと云ふ  
 しとも日本なるみ六十里ありと教日此徳と極りて穴中にて教  
 日教とてよまじしと云ふことと云ふもけりしと云ふ徳徳の人あり  
 びの解ありと云ふと云ふと云ふも徳徳の人ありと云ふ  
 の徳徳のひと云ふ徳徳の徳徳の穴中と云ふも徳徳の徳徳の  
 大地毒びの徳徳の徳徳の徳徳の徳徳の徳徳の徳徳の徳徳の  
 穴中と云ふも徳徳の徳徳の徳徳の徳徳の徳徳の徳徳の徳徳の徳徳の

穴中と云ふも徳徳の徳徳の徳徳の徳徳の徳徳の徳徳の徳徳の徳徳の  
 やく入るは細きと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

西遊記卷之五終



一 西遊記 後編 全部八冊 近刻

一 東遊記 前編 全部六冊

一 日 後編 全部六冊

寛政七年卯三月

著屋儀兵衛

萬屋九兵衛

金屋惣助

穠田屋藤兵衛

田中屋惣助

塩屋平助

書林

大坂

